

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 ナノデス アクスウイングVII	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.460	ΔRG 0.058	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：アクスウイングVII

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 番

PAPからピンとの距離
5 インチ

研磨剤

比較対照ボール：アクスウイングVI

フレアーの幅 インチ

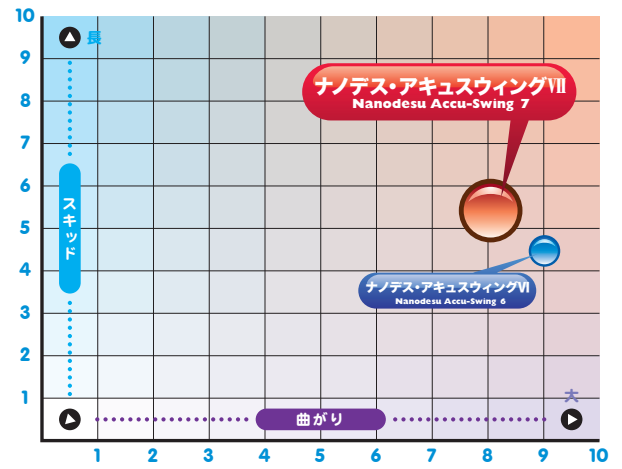
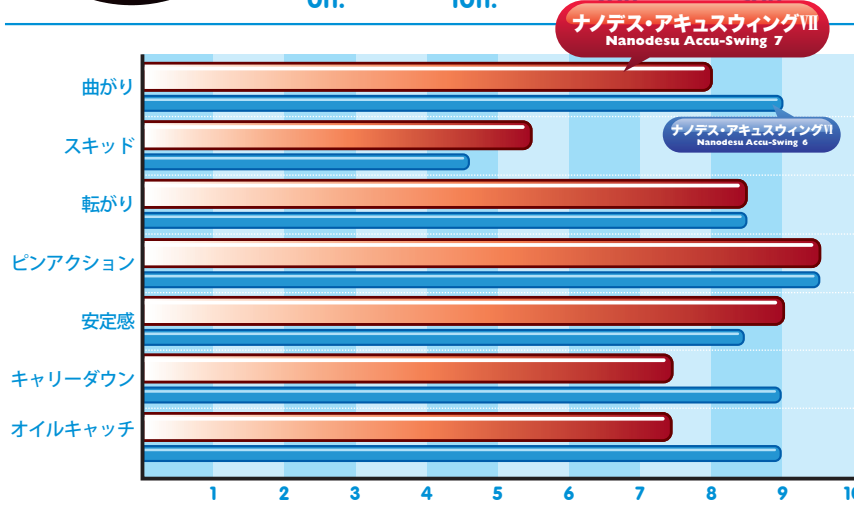
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 番

PAPからピンとの距離
5 インチ

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

国産の匠な技術とスピリッツで、常に最先端を追い続けるナノデス アクスウイングシリーズに新たに今回”VII”(セブン)をリリース致します。

私達ABSボール開発チームが今回のアクスウイングVIIに求めたものは、「優勝をもぎ取る性能」です。そのために評価の高いアクスウイングVIのカバーストックの仕上げの光沢度を上げ、性能領域をややミディアムコンディションよりにする事で、キャッチを損なわずに幅広いコンディションへ対応できるよう、一番使用率の高い領域を狙い撃ちして作り上げました。目的を果たすべく新しく採用されたコアシステムはシンプルながら高いΔRGを持ち、IntDiffは0.020と高い数値を誇ります。ミッドエリアのオイルの捉え方の安定感とバックエンドでのネジレの強さをだすことで、ボールの挙動を最小限に抑えつつ、しっかりとフィニッシュさせピンを倒しにいく、コンセプトに基づいたコアとカバーストックのコラボレーションが生み出す性能そのものと感じて頂けるでしょう。

そして国内外でもトップレベルと言えるナノデスの生命線とも言えるピンアクションは、反発係数ギリギリのリミッドまで下げた衝撃吸収コアシステム+Magnetite構造で、非常に良い出来だと感じています。

今回のアクスウイングVIIはややミディアムコンディション向きに仕上げてありますので、オイルー使用時やスピードのあるボウラーは少し光沢を消して投球するののも一つの選択肢だと思います。私は箱出しの状態でも好きですが、やや光沢を消してオイルを求めるとセッとした仕上げも面白いと思っています。おなじカバーでもアクスウイングVIと違った性能感じる事ができますので、是非タイプと用途に合わせ、加工を試みて下さい。

特記事項

ナノデスシリーズ最新作のVIIは、ミディアムコンディションを中心としたステージで幅広い対応力と反発係数リミットギリギリのアクションが売りの逸品です。